

脳圧測定検査

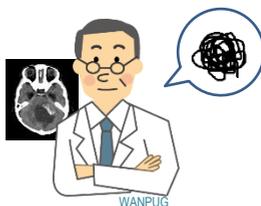


子ども達に「**勇気**、**夢**として**笑顔**」を

脳圧測定検査とは

脳ずがいこつや頭蓋骨の病変などにより頭蓋内圧ずがいないあつ(脳圧、ICP ともいいます)が上昇し、頭痛や嘔気、意識障害などの症状を呈することがあります。

病変の確認は、頭部の CT 検査や MRI 検査により行われますが、頭蓋内圧の上昇は、画像検査ではわかりません。



当センターでは、頭蓋内に圧センサーを設置し、直接頭蓋内圧を測定する検査を行い、その後の治療を計画しています。

対象となる疾患

- ・頭蓋骨縫合早期癒合症ずがいこつほうごうそうきゆうごうしやう (狭頭症)
- ・脳室拡大 (水頭症)
- ・重症頭部外傷
- ・脳梗塞のうこうそく
- ・いろいろな脳症
などの疾患です。

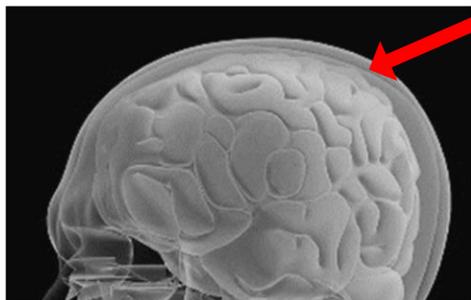


1 週間前後の入院で行います。



全身麻酔による手術で、頭蓋骨に小さな穴をあけ頭蓋内に圧センサーを設置します。頭部に数 cm の傷が残ります。

センサーは、一般的に頭蓋骨内の^{こうまくがいくう}硬膜外腔* に設置します。

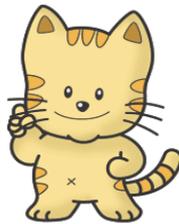


*硬膜外腔：
頭蓋骨と硬膜との間、
硬膜(脳を守る膜)の
外側にあたります



測定は、手術後一般病棟で 2~3 日間行い、記録します。記録されたデータを解析し、今後の治療について検討します。





地方独立行政法人 大阪府立病院機構

大阪母子医療センター

<脳神経外科>

〒594-1101 大阪府和泉市室堂町 840

患者支援センター TEL 0725-56-1220

FAX 0725-56-5605

2022.8 改訂